

お釈迦様(その4)

お釈迦様と仏陀（ブッダ）の違い

お釈迦様とのことを仏陀(ブッダ)とも呼びます。なぜ呼び方が違うのか、同一人物なのかは、かなり難しい問題です。仏陀の概要と、お釈迦様について考えてみます。

まず、「仏陀」はサンスクリット語の「ブドウ」という言葉が語源です。仏陀には「目覚めた人」や「悟りを開いた人」という意味が込められています。

お釈迦様は悟りを開いたので尊敬の念を込めて、仏陀と呼ばれています。これに誤りはありません。

しかし、お釈迦様ただひとりを仏陀とする説と、元々優れた修行者をすべて仏陀と呼んでいたため、お釈迦様はその中のひとりとする説があります。

研究対象や仏教宗派など、それぞれの立場や考え方によって、お釈迦様と仏陀の関係は変わってきます。いろいろな関連本を読んだり、寺院を訪ねて僧侶から法話を聞いたりすると、お釈迦様と仏陀の謎が解明できるかもしれません。



本堂北（山側）から撮影

まで、動きがあつて、スムーズに配信されたそうです。

先祖の法事を勤めない多くの理由が、家にいない息子・娘が帰ってこれないから。でもその子供さんたちも、先祖の法事が出来ない負い目は感じていらつしやるとのこと。これらの問題を、オンライン法事が解決してくれるかな？善教寺オンライン法事配信スタジオ、近々作るとしよう。

住職レター

春のお彼岸が参りました。日が長くなり、寒さが緩み、桜の便りが聞こえてきまして、本来なら心ウキウキ感でありましょうが、コロナ禍の収束が見通せず、気持ちも晴れ晴れという感じはしません。この状況ですと、来年のお花見も、桜を愛でながら大酒を飲んだの宴会は難しいかもしれませんね。さて先月の善教寺寺報（住職レター）にて、「法事がオンライン化していくかも？」と綴りました。

実際、もう何度か、オンライン法事を勤めました。法事で参勤いたしますと開口一番、「住職さん、娘が〇〇から帰ってこれなかったの、スマホ経由でお経を届けてやってもいいですか？」と。中には、本格的に、ウェブカメラとノートパソコンを準備されていた門徒宅もありました。コロナ禍ゆえに、広島の実家へ帰ってくるのが出来なかったのでしょうか。

お経が終わった後、遠隔地にいらつしやる方と、ウェブカメラとマイクを通して直接お話しをしたこともあるのですが、お経は途切れずに、私の声がちゃんと遠方にも届いたとのこと。しかも、私の法話の表情